マナビエ
MANABIE

記述の設計図　第4部 4つの型

U10　理由型（なぜか）

ベーシック

対象：小学5年・偏差値55〜60

1. 要点（ルール）
2. 例題　物語文「続きの巻」
3. 練習1・練習2（解答らんつき）
4. 解答と採点表

要点　理由型のルール

R10-1　つながりテスト

「[理由]だから[――線部]。」と声に出して読む。間に説明が1つも要らなければ、それが直接の理由。間に説明が要るものは、遠い原因(きっかけ・背景)。

R10-2　理由は3しゅるい

①原因(～したから起きた)②目的(～するため)③意味(「なぜ〇〇と言えるのか」は〇〇の意味を説明する)。設問を最後まで読んで、どれを聞かれているかを決める。

R10-3　物語文は「気持ち＋きっかけ」

――線部が行動なら、その行動を直接生んだ気持ちと、気持ちが生まれたきっかけを書く。ただしこれは多くの場合の話(傾向)。――線部がもう気持ちのとき・意味を聞かれたときは、気持ちを足さなくてよい。

R10-4　入れる順番

直接の理由 ＞ きっかけ ＞ 背景。字数が足りなければ背景から外す。本文に書いていないこと(根拠のない要素)は入れない。要素表に「本文の何段落か」を書いてから使う。

R10-5　文のおわり

原因・意味なら「～から。」、目的なら「～ため。」で終える。

R10-6　採点表で見直す

答えは「要素ごとの点」で採点される。直接の理由がいちばん点が高い。字数を1字でもこえると、採点されないことが多い。

ルールの番号(R10-〇)は、講座全体の通し番号です。動画・Webページ・このPDFで同じ番号を使っています。

例題　物語文「続きの巻」

① 四月に転校してきたミオは、休み時間になると、いつも一人で本を読んでいた。前の学校の友だちとの手紙のやりとりも、少しずつへってきていた。

② 五月のある日、図書室で『星を数える少年』の一巻を読んでいると、となりにすわったアカリが、表紙をのぞきこんで言った。

③ 「それ、わたしも大好き。二巻は、もっとおもしろいんだよ。」

④ ミオはおどろいて顔を上げた。この本を知っている人に、この学校で会ったのは初めてだった。

⑤ 「二巻は、まだ読んでいないの。図書室にもなくて。」

⑥ 「じゃあ、うちのを貸してあげる。明日、朝の会の前に持ってくるね。早く来られる？」

⑦ ミオは、大きくうなずいた。

⑧ その日の帰り道、ミオは一巻の最後の場面を何度も思いうかべながら歩いた。少年は、あのあとどうなるのだろう。アカリは、どの場面がいちばん好きなのだろう。聞いてみたいことが、次から次へとうかんできた。

⑨ 夕ごはんのあと、ミオは台所にいる母に、「明日は六時に起こして」とたのんだ。母は「あら、めずらしいね」と笑った。

⑩ その夜、ミオはまくらもとに一巻を置いて、なかなかねむれなかった。

問　――線部「『明日は六時に起こして』とたのんだ」とありますが、ミオがこのようにたのんだのはなぜですか。五十字以内で説明しなさい。

解き方

1. **手順1　――線部は何？**
   ――線部は「六時に起こして」とたのむという行動。物語文の行動の理由なので、多くの場合「気持ち＋きっかけ」を書く(R10-3)。
2. **手順2　理由の候補を集める**
   ①段落：転校してきて、いつも一人で本を読んでいた。／②～⑥段落：同じ本が好きなアカリが、二巻を朝の会の前に貸してくれると言った。／⑧段落：聞いてみたいことが次から次へとうかんだ(早く話したい・楽しみな気持ち)。
3. **手順3　つながりテスト**
   「転校してきて一人だったから、六時に起こしてとたのんだ」→間に説明がたくさん要る＝背景。「アカリが二巻を貸すと言ったから、たのんだ」→まだ「だから早く学校へ行きたい」が要る＝きっかけ。「早く学校へ行って二巻を借り、本の話をしたかったから、たのんだ」→そのままつながる＝直接の理由。

4. **手順4　入れる要素を決める**
   五十字なので、直接の理由ときっかけの2つ。背景（転校・一人）は字数が足りないので外す。「アカリと親友になれた」は本文に書いていないので入れない。

5. **手順5　文にする**
   きっかけ→直接の理由の順に書き、「～から。」で終える。

要素表（材料を集める）

要素	中身	根拠	入れる？
直接の理由（気持ち）	早く学校へ行って二巻を借り、アカリと本の話をしたかった（楽しみ）	⑥⑧	◎ 入れる
きっかけ	同じ本が好きなアカリが、朝の会の前に二巻を貸してくれることになった	②③⑤⑥	○ 入れる
背景	転校してきて、いつも一人で本を読んでいた	①	△ 字数があまれば
根拠なし	アカリと親友になれた／前の学校がなつかしくなった	なし	× 入れない

模範解答

模範解答　49字／50字以内

同じ本が好きなアカリが朝の会の前に二巻を貸してくれるので、早く学校へ行って本の話をしたかったから。

採点表

採点表（要素ごとの配点）	点
直接の理由：早く学校へ行って（二巻を借りて）本の話をしたかった・楽しみだった	5点
きっかけ：同じ本が好きなアカリが、朝の会の前に二巻を貸してくれる	3点
だれが何をしたかがはっきりしている（アカリが貸す・ミオが行きたい）	1点
文末が「～から。」	1点
合計	**10点**

減点の型（こう書くと）	何点になる？ なぜ？
「転校してきて、一人だったから。」	背景だけ。直接の理由もきっかけも無いので、内容の点は0点。
「アカリが二巻を貸してくれると言ったから。」	出来事だけで気持ちが無い。直接の理由の5点が入らない（10点中5点）。
「アカリと親友になれてうれしかったから。」	本文に書いていない（根拠なし）。その部分は0点。
「～本の話をしたかった。」	文末が「から。」でない。1点引く。
五十一字以上	字数オーバー。採点されないことが多い（0点）。

練習1　説明文「冬の前に葉を落とす木」

① 秋になると、イチョウやサクラの葉は色を変え、やがて地面に落ちていく。葉は、日光を受けて、木が生きるための養分をつくる大切な場所だ。それなのに、なぜ木は、冬が来る前に葉を落としてしまうのだろうか。

② 葉の裏がわには、気孔とよばれる、目に見えないほど小さなあながたくさんある。木が根からすい上げた水は、この気孔から、少しずつ空気の中へ出ていく。夏のあいだは、根から水をいくらでもすい上げられるので、水が出ていっても困ることはない。

③ ところが冬になると、土の中の水はつめたくなり、ときにはこおってしまう。すると根は、水を思うようにすい上げられなくなる。それでも葉がついたままだと、水は気孔から出ていく一方になり、木はからからにかわいてしまう。

④ そこで木は、冬が来る前に、自分から葉を落とす。水の出口を、先にしめてしまうのである。葉のない冬の木は、かれているように見えるが、じっと春を待っているのだ。春になって土があたたかくなると、木はまた新しい葉を広げ、養分をつくりはじめる。

問　――線部「冬が来る前に葉を落としてしまう」とありますが、木が冬の前に葉を落とすのはなぜですか。五十字以内で説明しなさい。

① 要素表を書こう

要素（直接の理由・きっかけ・背景）	中身	根拠の段落

② 答えを書こう

									10										20
									30										40
									50										

50字以内（1マスに1字。句読点も1字）

練習2　物語文「宝の地図」

① ソウタの算数のノートには、赤いペンの印がたくさんついている。テストでまちがえた問題を、そのたびにノートに写し、どこでまちがえたのかを、赤で書きこんでいるからだ。ノートは、もう三冊目になった。

② 「そんなに赤くしたら、きたなく見えない？」

③ 中学生の姉のナナが、横からのぞきこんで言った。

④ 「いいんだよ。これは、ぼくの宝の地図なんだから。」

⑤ ソウタはページをめくって見せた。

⑥ 「ほら、ここ。分数のわり算で、ひっくり返すのをわすれた印。こっちは、筆算でくり上がりを書きわすれた印。次のテストの前にこれを見れば、どこに気をつければいいか、すぐにわかるんだ。」

⑦ 先週の算数のテストで、ソウタは初めて九十点を取った。テストの前の日に、ノートの赤い印を一つずつ見直して、同じまちがいをしないように気をつけたのだ。

⑧ ナナは、しばらく赤い印をながめていた。それから、「わたしも、まちがえたところを消さないで、とっておこうかな」と、小さな声で言った。

問　――線部「ぼくの宝の地図」とありますが、ソウタが自分のノートを「宝の地図」と言えるのはなぜですか。五十字以内で説明しなさい。

① 要素表を書こう

要素(直接の理由・きっかけ・背景)	中身	根拠の段落

② 答えを書こう

									10										20
									30										40
									50										

50字以内(1マスに1字。句読点も1字)

解答と採点表

練習1　説明文「冬の前に葉を落とす木」

解き方

1. **手順1　――線部は何？**
   木が葉を落とすこと。説明文なので、気持ちは要らない。

2. **手順2　わなを見分ける**
   ①段落「葉は養分をつくる大切な場所だ」は、「それなのに」の前。つながりテスト「大切な場所だから、葉を落とす」→意味が反対になる＝理由ではない。

3. **手順3　直接の理由をさがす**
   ④段落「水の出口を、先にしめてしまう」。これはたとえ（比喩）なので、③段落を使って「気孔から水が出ていって、木がかわくのをふせぐ」と言いかえる。目的なので「～ため。」で終える（R10-2・R10-5）。

4. **手順4　きっかけを足す**
   ③段落「冬は土の水がつめたく、こおり、根が水をすい上げにくい」。これが、水の出口をしめなければならないきっかけ（原因）。

要素表

要素	中身	根拠	入れる？
直接の理由（目的）	気孔から水が出ていって、木がかわいてしまうのをふせぐ	③④	◎ 入れる
きっかけ（原因）	冬は土の水がつめたくなり、根が水をすい上げにくくなる	③	○ 入れる
わな	葉は養分をつくる大切な場所だ（「それなのに」の前＝反対）	①	× 入れない

模範解答

模範解答　46字／50字以内

冬は根が水をすい上げにくくなるので、気孔から水が出ていって木がかわいてしまうのをふせぐため。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
直接の理由:気孔(葉)から水が出ていって、木がかわくのをふせぐ	5点
きっかけ:冬は根が水をすい上げにくくなる(土の水がつめたい・こおる)	3点
たとえ「水の出口をしめる」を、自分の言葉で言いかえている	1点
文末が「〜ため。」か「〜から。」	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「葉は養分をつくる大切な場所だから。」	「それなのに」の前＝反対の内容。0点。
「水の出口を先にしめるため。」	たとえのまま。何をふせぐのかが書いていない。直接の理由は5点中2点。
「秋になったから。」	遠すぎる(つながりテストで、間に説明がたくさん要る)。0点。

練習2　物語文「宝の地図」

解き方

1. **手順1　設問を最後まで読む**
   「なぜ〜と言えるのですか」＝「宝の地図」の意味を説明する問題(R10-2の③)。原因をさがす問題ではない。
2. **手順2　たとえの意味**
   宝の地図＝大事なものがどこにあるかを教えてくれる地図。ノートでは、何を教えてくれる？
3. **手順3　本文の根拠**
   ①段落:まちがえた問題と、どこでまちがえたかを書きこんである。⑥段落:見れば、次にどこに気をつければいいかがすぐわかる。⑦段落:見直して九十点を取れた(⑥の具体的な例)。
4. **手順4　気持ちは足さない**
   物語文でも、意味を聞かれているので、気持ちは要らない(R10-3の例外)。「〜から。」で終える。

要素表

要素	中身	根拠	入れる？
意味(直接の理由)	見直せば、次にどこに気をつければよいかがすぐわかる	⑥	◎ 入れる
ノートの中身	まちがえた問題と、どこでまちがえたかを書きこんである	①⑥	○ 入れる
具体例	九十点を取れた	⑦	△ 例なので入れなくてよい
根拠なし	ノートを見るのが楽しいから	なし	× 入れない

模範解答

模範解答　50字／50字以内

まちがえた問題とまちがえた所が書きこんであり、見直せば次にどこに気をつければよいかがすぐわかるから。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
意味:見直せば、次にどこに気をつければよいかがわかる	5点
中身:まちがえた問題と、まちがえた所が書いてある	3点
たとえ(宝の地図)を使わずに説明している	1点
文末が「～から。」	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「赤い印がたくさんついているから。」	見た目だけ。何の役に立つのか(意味)が無い。1点。
「九十点を取れたから。」	一つの例だけ。意味の説明になっていない。5点中2点。
「宝の地図のように大切だから。」	たとえのまま。0点。

マナビエ
MANABIE

記述の設計図　U10 理由型(ベーシック)

© MANABIE　無断転載・複製・改変・再配布を禁じます